

稚内市における部活動の拠点校方式への移行について

本市における部活動の現状

- 生徒自身が希望する部活動が該当校にない。
- 生徒数の減少が加速化し、深刻な少子化が進行している。
- 中学校の教員は部活動の指導もあり、業務量が非常に大きくなっており、現在、教員のなり手がいないという大きな問題も抱えている。
- 団体競技を自分の学校で行うことも難しくなっている。
- 部活動はあるものの、学校単独ではチームが組めず、各校の合同チームで出場している状況や、通学する学校に希望する部活動がなく、拠点校方式をとり活動している部活動もある。

市内中学校における部活動と在籍数(R4.5)

学校名→ 部活名↓	稚内中学校 (86)	南中学校 (209)	東中学校 (145)	潮見が丘中学校 (201)	宗谷中学校 (29)	合計 (670)
野球部	13	10	15	22	5	65
サッカー部		25	13	15		53
男子バレーボール部				14		14
女子バレーボール部	2	12	7	21		42
男子バスケットボール部	12	22		16		50
女子バスケットボール部		11	15	16		42
バドミントン部	27	26	26	35	13	127
ソフトテニス部		19				19
卓球部					9	9
音楽部	14					14
文化部		23	16	19		58
吹奏楽部		30	27	23		80
合計	68	178	119	181	27	573
部活動加入率	79%	85%	82%	90%	93%	

- 現在、野球やサッカーは合同チームで出場している。
- 男子バレーボールについては、潮見が丘中学校以外に部活動自体がなく、潮見が丘中学校を拠点校として活動している。

【合同チームとは】…在籍校に部活動はあるが、競技種目の人数に満たない。

【拠点校方式とは】…在籍校に部活動がない。

子どもたちが部活動において、自分の好きなスポーツ・文化活動を選べなくなっている

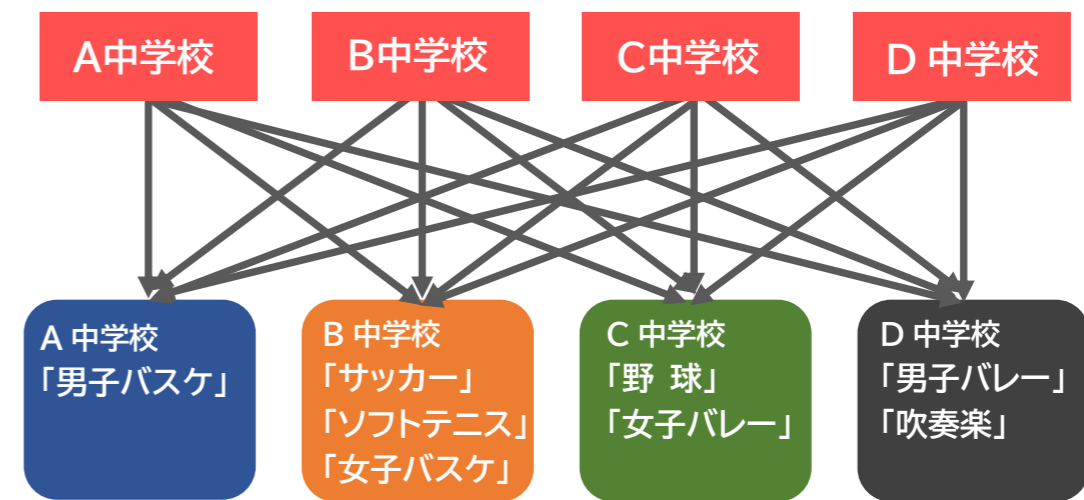
部活動の拠点校方式への移行

まずは拠点校方式へ

- 例えば、野球はA中学校、サッカーはB中学校、バレーボールはC中学校、バスケットはD中学校等のように、拠点校を設定し、部活動の時間はその競技をやりたい生徒が1つの学校に集合して活動する「拠点校方式」への移行を検討する。
- 指導にあたる教員を少なくすることが可能。
- 中体連は公式戦に参加緩和の方向。
- 国が示す地域移行を行って行く際にも、拠点校方式をとりながら、休日の活動のみを段階的に地域移行していく等の検討がしやすい。

市内中学校部活動の拠点校方式イメージ

例)



今後の課題

- 平日も含め、拠点校方式とする場合は、自校から拠点校までの移動手段の確保等が必要となる。
- 将来的に地域移行していく際には、その受け皿として、各競技団体の協会やクラブチームが想定される。その際の指導者への報酬等についても検討を要する。